

に扱はれたり云々

九州一の温泉宿

浴場丈で五千圓の工事

葦北郡日奈久町の素封家松本諦三郎氏が、同地繁栄の一策として約二万圓を投じ、四十年六月より起工したる九州無比の大旅館は、略落成して本年八月より營業開始の筈なるが、敷地百坪の三層樓にて十二畳半と八畳敷の客室十八間と玉突き場を置き、部屋は隣室の喧騒が聞えざるやう風通しと光線眺望の許す限り塗壁とし廊下を思ひ切つて廣くしたれば、屋内の運動に便利よく梯子を六尺幅として足場九寸勾配五寸七分とせり、用材は重に人吉より取り、欄干と廊下は櫻を其他桐檜等良材を用ひ、障子は熊本に大工は同地の牧喜太郎氏棟梁にて左官は大坂大森組の推選にかゝり、襖には凡て鳥の子を用ひ、サンゴ屏風の繪も珊瑚白金等にて**極彩色**を施せる。なごにて床の懸物亦之に應じて探幽華山筆等名家秘藏の逸品なる由縁を椅子の如

き遠く上海に注文し庭園の石燈籠は徳山より、其他の石材は三角より取り寄せ、椋推松等十五六尺の巨木を庭園に移植したる如き如何に費用を惜まざるかを知らべし、又同旅館の特色は浴場と屋上庭園にて浴場の廣さ五十坪高さ一丈三尺浴槽は普通の男湯女湯の外夫婦入二ヶ所都合四ヶ所に分ち浴場丈にて五千圓を要したりと浴室の**屋上五十坪庭園**とし、泉水築山花園藤棚、茶室噴水等を設け、浴後の逍遙休憩場にあて、日奈久は蔬菜の不自由なるよし野菜畑を作りて不時の需要に應ずる事とし、香料の如きも從來の木賃制度に幾分改良を加へたる。方法にて料理人給仕女等も大坂熊本の旅館に交渉して其粹を抜く筈なるが、兎に角營利を主眼とせず、旅客の満足計るが目的なれば、凡ての方法設備が理想に近く、以て日奈久の誇りとするに足るべき大旅館なり。

創業当時の新聞記事より

1909年(明治42年)7月7日 九州日日新聞に「九州一の温泉宿」として紹介されています。

九州一の温泉宿 浴場だけで五千圓の工事

葦北郡日奈久町の素封家松本諦三郎氏が、同地繁栄の一策として、約二万圓を投じ、(明治)四〇年六月より起工したる九州無比の大旅館は、ほぼ落成して、本年八月より營業開始のはずなるが、敷地百坪の三層樓にて十二畳半と八畳敷の客室十八間と、玉突き場を置き、部屋は隣室の喧騒が聞こえざるやう、風通しと光線眺望の許す限り塗壁とし、廊下を思い切つて廣くしたれば、屋内の運動に便利よく、梯子を六尺幅として、足場九寸、勾配五寸七分とせり。

用材はおもに人吉より取り、欄干と廊下は櫻を。その他、桐檜等良材を用ひ、襖、障子は熊本に、大工は同地の牧喜太郎氏棟梁にて、左官は大坂大森組の推薦にかかり、襖にはすべて鳥の子を用ひる。

サンゴ屏風の繪も珊瑚白金等にて極彩色を施せるなどに、床の掛物またこれに應じて探幽華山筆等名家秘藏の逸品なる由、寝台椅子のごとき遠く上海に注文し、庭園の石燈籠は徳山より、その他の石材は三角より取り寄せ、椋、椎、松、桜など十五、六尺の巨木をわざわざ庭園に移植したるとき、いかに費用を惜しまざるかを知らべし。

また同旅館の特色は浴場と屋上庭園にて、浴場の広さ、五十坪、高さ一丈三尺。浴槽は普通の男湯女湯の他、夫婦入り二ヶ所、都合四ヶ所に分ち、浴場だけで五千圓を要したりと。

浴室の屋上五十坪は庭園とし、泉水築山花園藤棚、茶室噴水等を設け、浴後の逍遙、休憩場にあて、日奈久は蔬菜の不自由なるより、野菜畑を作りて不時の需要に應ずることとし、香料のごときも、從來の木賃制度に幾分改良を加へたる。方法にて料理人給仕女等も大坂、熊本の旅館に交渉して、その粹を抜くはずなるが、とにかく營利を主眼とせず、旅客の満足計るが目的なれば、すべての方法設備が理想に近く、以て、日奈久の誇りとするに足るべき大旅館なり。